

三菱UFJフィナンシャル・グループ
株主の皆さまへ

第4期第3四半期(平成20年4月1日～平成20年12月31日)



Quality for You  MUFG

決算のポイント

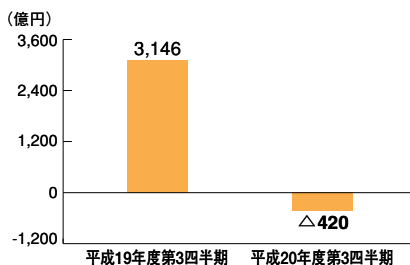
- 連結四半期純利益（平成20年4月～12月）は、与信関係費用の増加や株式等関係損益の悪化を主因に、前年同期比3,567億円減少の420億円の赤字
- 貸出金は、国内法人貸出の増加により、平成20年9月末比2.6兆円増加。預金は、海外店預金の減少により平成20年9月末比1.6兆円減少も、国内個人預金は増加継続
- 連結自己資本比率は、平成20年9月末比0.17ポイント上昇の10.72%

〈損益の状況〉

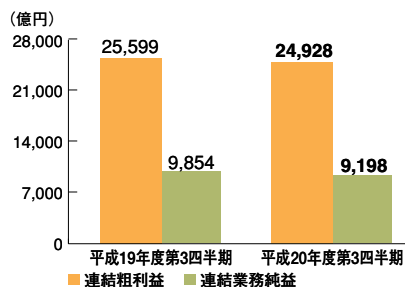
連結粗利益は、前年同期比670億円減少の2兆4,928億円となりました。海外貸出収益の増加や外貨調達コストの減少などにより資金利益は増加しましたが、市場環境の悪化から、投信・保険、証券、不動産手数料などが減少したことが主な要因です。営業費は、新システムへの移行に伴う費用などの増加があったものの、経費削減への取り組みにより、前年同期比微減の1兆5,729億円となりました。こうした結果、連結業務純益は前年同期比655億円減少し9,198億円となりました。

与信関係費用総額は、国内外における取引先企業の業績悪化を反映した格付けの見直しなどにより、前年同期比990億円悪化の4,335億円となりました。また、株式相場の下落を受け、株式等償却3,957億円を計上したことにより、連結四半期純利益は、前年同期比3,567億円減少し、420億円の赤字となりました。

連結四半期純利益

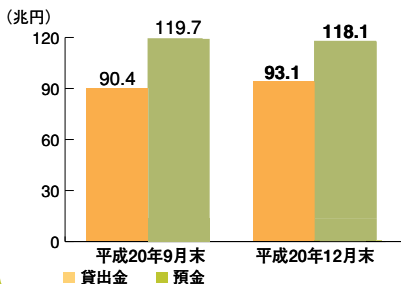


連結粗利益・連結業務純益



(注)業績説明に使用している計数は、各々単位未満を切り捨てて表示しています。従って、表中のある項目の計数と他の項目を加減計算した結果とが一致しないことや、説明文中の増減数値とグラフ・表中の計数を加減計算した結果とが一致しないことがあります。

貸出金・預金

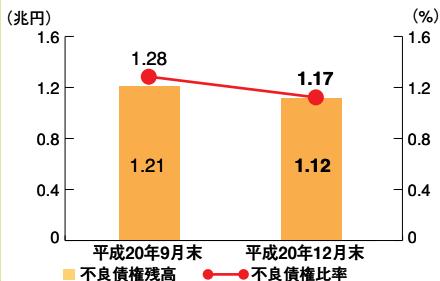


〈貸出金・預金の状況〉

貸出金は、国内法人貸出の増加を主に、平成20年9月末比2.6兆円増加し、93.1兆円となりました。

預金は、為替要因等による海外店預金の減少によって、平成20年9月末比1.6兆円減少の118.1兆円となりましたが、国内個人預金は引き続き堅調に推移し0.8兆円増加の63.5兆円となりました。

不良債権残高・比率

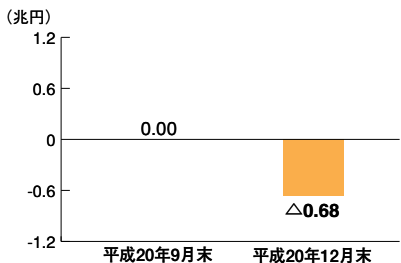


〈不良債権残高・比率の状況〉

不良債権残高*は、平成20年9月末比0.09兆円減少の1.12兆円、不良債権比率も、平成20年9月末比0.11ポイント低下の1.17%となりました。

*三菱東京UFJ銀行と三菱UFJ信託銀行の単体合算

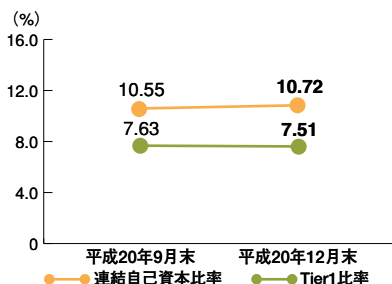
有価証券の含み損益



〈有価証券含み損益の状況〉

株式相場の一段の下落を受け、国内株式の含み益が減少した結果、有価証券全体の含み損益合計（その他有価証券評価差額）は、平成20年9月末比約0.68兆円減少し、0.68兆円の含み損となりました。

連結自己資本比率



〈連結自己資本比率の状況〉

連結自己資本比率は、平成20年9月末比0.17ポイント上昇し10.72%となりました。Tier1比率は0.11ポイント低下し7.51%となりました。

【第3四半期決算に関するQ&A】

Q. 市場価格のある株式の減損処理について教えてください。

A. 当社および国内連結子会社は、市場価格のある保有株式の時価が取得原価に比べて著しく下落し、回復する見込みがないと判断した銘柄については、期末時点の時価まで評価額を引き下げ、差額を損失とする経理処理(減損処理)を行っています。

平成20年度第3四半期決算(平成20年4月～12月)では、株式相場の大幅下落を受け、保有株式等の減損処理により株式等償却3,957億円を計上しました。その結果、株式等関係損益が前年同期比△3,632億円の△3,263億円と大幅に悪化し、当四半期決算が赤字となった主な要因となりました。

なお、平成20年度通期の減損処理額は、個別銘柄ごとに平成21年3月末の株価により改めて計算され、決定されます。

Q. 米国低所得者向け不動産貸出(サブプライムローン)関連商品をはじめとする証券化商品等への投資状況を教えてください。

A. 平成20年12月末の証券化商品等への投資残高は、償還・売却に加え、為替(円高)の影響もあり、平成20年9月末比5,010億円減少の2.62兆円となりました。

評価損は4,240億円となり、同9月末比770億円改善しました。また、平成20年度第3四半期(平成20年4月～12月)の損益は、価格下落に伴う減損や住宅ローン証券化商品の売却損を中心に1,790億円の損失となりました。

平成20年度第3四半期の業績について

(単位：億円)

損益の状況(連結)	平成19年度第3四半期 (平成19年4月～12月)	平成20年度第3四半期 (平成20年4月～12月)
連結粗利益(信託勘定償却前)	25,599	24,928
うち資金利益	13,859	14,101
うち役員取引等利益	7,961	7,228
営業費	15,745	15,729
連結業務純益 (一般貸倒引当金繰入・信託勘定償却前)	9,854	9,198
臨時損益(△は費用)	△ 3,317	△ 8,362
うち与信関係費用	△ 3,458	△ 4,646
うち株式等関係損益	369	△ 3,263
経常利益	6,650	1,139
特別損益(△は損失)	△ 329	△ 32
うち償却債権取立益	312	244
うち子会社株式売却益	-	327
うちシステム統合に係る費用	-	△ 765
法人税等十法人税等調整額	2,627	903
少数株主利益	546	623
四半期純利益(△は損失)	3,146	△ 420

与信関係費用総額(△は費用) (信託勘定償却十一般貸倒引当金繰入十与信関係費用十偶発損失引当金戻入益(与信関係))	△ 3,344	△ 4,335
--	---------	---------

資産・負債の状況(連結)	平成20年9月末	平成20年12月末
資産の部	1,940,242	1,988,916
うち貸出金	904,451	931,250
うち有価証券	386,713	455,092
負債の部	1,849,816	1,896,988
うち預金	1,197,983	1,181,281
純資産の部	90,426	91,927

連結自己資本比率の状況(第一基準)	平成20年9月末	平成20年12月末
自己資本比率	10.55%	10.72%
Tier1 比率	7.63%	7.51%
自己資本	115,902	117,738
Tier1	83,804	82,457
総所要自己資本額	87,831	87,799

業界初！走る店舗 「移動営業所」がスタート

カブドットコム証券は、平成二十年十月より、トラックに最新機器を搭載した「移動営業所」で、証券事務や投資情報提供といった証券窓口サービスを始めました。

証券業界初となる「移動営業所」では、同社サービスのご紹介やインターネット取引の操作方法のご案内、口座開設や各種手続きのお取り次ぎを行います。また、車両側面の大型ディスプレイを活用した



ミニセミナーも開催しています。

同社では、優れたインターネット経由のサービスに加えて、「移動営業所」による対面でのサービスを新たに提供することで、お客さまのさらなる利便性向上に努めていきます。今後、その機動力を活かし、全国を巡回していく予定です。

海外ビジネス情報ウェブサービス 「MUFGBizBuddy」スタート

三菱東京UFJ銀行は、平成二十二年二月より、海外で活躍される日系企業のお客さまを対象に、会員制の情報提供ウェブサービス「MUFGBizBuddy(ビズバディ)」を開始しました。

このサービスは、お客さまの所在国別のページを設け、同行海外拠点で作成した為替・金融情報に加え、外部の専門家による現地の人事・

労務、税務・会計、政治・経済などのビジネスに欠かせない情報を日本語でご提供するものです。インドネシア・シンガポール・タイの三カ国から開始し、今後、対象国を拡げていく予定です。

三菱東京UFJ銀行では、事業を展開する国における経営関連の情報を、いち早く入手したいというお客さまのニーズに、今後も積極的にお応えしていきます。



バハレーン支店 ドーハ出張所の開設

三菱東京UFJ銀行は、カタール国の首都ドーハにあるカタール金融センター内に、バハレーン支店ドーハ出張所を開設します。

豊富な天然ガス資源を背景に、国民一人当たりの名目国内総生産が中東・北アフリカ地域で第一位を誇るカタールでは、今後も天然ガスやインフラ関連の事業拡大が見込まれます。また、首都ドーハは、同地域における物流・交通の中心地のひとつであり、多くのビジネス情報が集まります。



当出張所の開設により、同行の中近東地域の拠点
は、昭和五十五年開設のバハレーン支店を中心に、三
つの出張所（アブダビ、ドバイ、
ドーハ）、二つの駐在員事務所
（カイロ、テヘラン）の計六拠点
となります。この邦銀唯一の拠
点網を活かし、今後も同地域で
事業を展開するお客さまのサ
ポートや情報収集などに積極
的に取り組んでいきます。

国際投信投資顧問、 投信会社満足度調査で首位

国際投信投資顧問は、格付投資情報センター（R&I）発行の『ファンド情報』（平成二十年十一月二十四日号）に掲載された「第二回投信会社満足度調査※」で、「総合評価」をはじめ、「サービス・サポート体制」「商品の運用能力」「商品企画力」「担当者の説明能力・人柄」の五部門すべてで首位の評価をいただきました。

国内最大級の投資信託である「グローバル・ソブリン・オープン」を擁する同社は、株式債券、不動産投資信託など幅広い資産で運用する投資信託を取りそろえています。

また、平成二十一年一月には、アジアや太平洋諸国・地域の政府や政府機関が発行する債券を中心に投資する投資信託を設定し、アジア重視の投資戦略も打ち

出しています。今後もお客さまのニーズを反映した商品の開発に取り組みとともに、各種の情報提供などを通じてお客さまの期待にお応えしていきます。

※調査は、国内に拠点を持つ主要金融機関を対象に、平成二十年八月から十月にかけて実施されたものです。



社会とともに

環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」

三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券および三菱UFJ環境財団は、日本ユネスコ協会連盟と共同で、環境教育プロジェクト「守ろう地球のたからもの」を平成二十年度から始めています。

このプロジェクトは、自然環境や文化財を、人類共通の「たからもの」として未来へ引き継いでいくための取り組みです。子どもたちが身近な自然を通じて、環境問題をはじめとする世界規模の課題に関心を寄せ、持続可能な社会に対する感性をはぐくむことができるように「学び」「気づき」「行動」の観点から活動しています。

「学び」の一環として、全国の小

学校、中学校を対象に環境教材「守ろう地球のたからもの」持続可能な社会をめざして「豊かな自然編」を制作し、平成二十年十二月から、ご希望に応じて配布してきました。この教材を通して、子どもたちが楽しく環境問題を学び、人間と自然とのより良いかわりについて考えるための知識や知恵、価値観を身につけることをめざしています。

また、絵を描くことを通じた「気づき」の機会として開催している「みどりの絵コンクール」は



「守ろう地球のたからもの」専用ホームページ
<http://www.unesco-esd.jp/index.html>



第三十三回目を迎え、約二万五千名の子どもたちから応募をいただきました。平成二十年十二月には、九名の最優秀受賞者をご家族をお招きして表彰式を行いました。

人類共通の「たからもの」を未来へ引き継いでいくため、今後このプロジェクトに取り組んでいきます。

環境展示会「エコプロダクツ2008」に出展

平成二十年十二月に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2008」(主催:社団法人産業環境管理協会、日本経済新聞社)に、三菱UFJフィナンシャル・グループ、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJ証券、三菱UFJニコスが共同でブースを出展しました。

「エコプロダクツ」とは、企業活動における環境への取り組みや環境技術の情報発信、また、環境配慮型製品やサービスの普及の機会として、毎年開催されている国内最大級の環境展示会で、今回で十回目となります。

MUFグループ



このブースでは、環境ファイナンスや排出権信託など各社の環境への取り組みを紹介するとともに、自然保護団体による講演、環境教育絵本「サクラソウのひみつ」の読み聞かせ会などを行い、ご来場された多くの方々から関心を寄せていただきました。

今後もMUFグループは、環境問題への取り組みを充実させていきます。

セミナー開催のご報告

平成二十一年二月、大阪と名古屋で開催した「株主セミナー」の概要をご報告します。

本セミナーに多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。抽選によりご招待した株主さま、二会場あわせて百七十八名にご来場いただきました。株主の皆さまを対象としたセミナーは、平成二十年九月の東京開催に続き二回目、大阪、名古屋では初めて開催いたしました。

ような催しは有意義などのご意見が寄せられました。アンケート等でいただいたご意見を参考に、今後も株主の皆さまを対象としたセミナーの充実を図ってまいります。

セミナーでは、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの五十嵐調査部長が、「内外の経済・金融を展望する」と題して講演を行い、サブプライム問題に端を発した米国景気後退の背景や為替相場が景気に与える影響などを解説。講演終了後の質疑応答も活発に行われました。

参加した皆さまからは「分かりやすく参考になった」「株主総会になかなか出席できないので、この



大阪会場



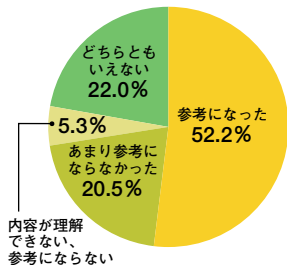
名古屋会場

株主アンケート結果のご報告

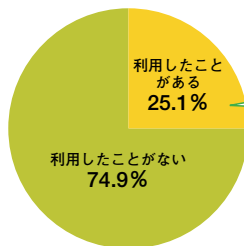
「株主の皆さまへ第4期第1四半期」(平成二十年九月発行)のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。アンケート結果をご報告いたします。

三菱UFJ信託銀行証券代行部について*

紹介記事に関するご意見



株式事務サービスやテレホンセンターのご利用

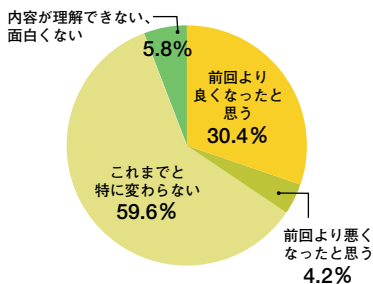


三菱UFJ信託銀行証券代行部をご利用されたことに関して「満足した」とするご意見が多く寄せられた一方、電話がつながりにくいなどサービスの向上に関してさまざまなご意見をいただきました。皆さまからいただいたご意見を踏まえ、株式事務サービスの向上に取り組んでまいります。

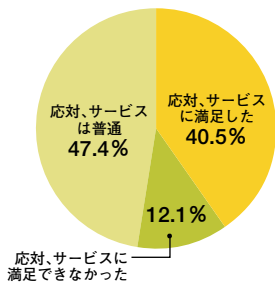
*三菱UFJ信託銀行証券代行部は、株主名簿管理人として、株主名簿の作成、株主総会関係書類の封入・発送などの証券代行業務を行っています。

ご回答いただいた株主の皆さま/回答者数：21,330名(回答率4.5%)

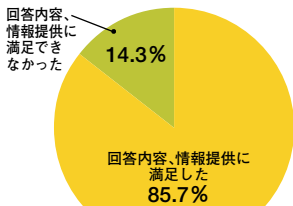
「株主の皆さまへ第4期第1四半期」の感想



ご利用されたことがある方の感想



株式事務に関するお問い合わせをされた方の感想



■株主優待制度に関するアンケートのお願い

当社の株主優待制度(「MUFG株主倶楽部」)に関するアンケートハガキを同封しています。大変お手数ですが、ご回答をご記入の上、ご返送くださいますようお願い申し上げます。本アンケートの結果は、今後の優待制度の参考にいたします。株主の皆さまのご協力をお願い申し上げます。

グループメッセージについて

MUFGグループは「Quality for You」を
グループメッセージとして、
お客さまとのさまざまな
コミュニケーションの場で展開していきます。

Quality for You

このメッセージには、
「『質』の高いサービスのご提供を通じて、
お客さま一人ひとりの生活や一社一社の事業の
『質』の向上をお手伝いしたい。
そして、こうした活動を通じて
地域・社会の発展に貢献していきたい」
という私たちの想いを込めています。

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

〒100-8330 東京都千代田区丸の内2-7-1
電話03(3240)8111(代表)
URL:<http://www.mufig.jp/>

株式に関するお手続きについてご不明な点などがございましたら、
以下の株主名簿管理人の連絡先にお問い合わせください。
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部テレホンセンター
Tel:0120-232-711(通話料無料)
(受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)